

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス	開設学科		食品開発科学科		
科目名称	卒業論文					授業形態	演習		
科目コード	270100	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	吉本 博明							ICT活 用	○
授業概要	<p>これまでに習得した食品全般に関する知識、経験を活かして、新たな切り口から未知の課題に対して指導教員と協議のもと研究テーマを選択、関連情報を文献検索を行い蒐集・調査した上で実験計画を立てる。実験計画については研究室内の進捗状況報告会にて討議し、了解を得た上で実験研究を進める。都度進捗状況を報告しながら最終的に卒業論文として纏め上げ提出する。</p> <p>研究内容については年度末に実施される卒業研究論文発表会に於いて発表を行い、学科内での承認を得ることで卒業論文として認定する。</p>								
関連する科目	1年～4年までに受講した全科目及び、研究課題で調査した文献に関係する科目の全て								
授業の進め方 と方法	<p>【課題の設定】 課題設定は個別におこなう</p> <p>【研究方法】 実験プロトコールについては、関連する論文を検索、熟読し、プロトコール（案）を実験ノートに記載し、教員とディスカッションする。研究の進捗報告については、個別に報告するとともに、毎週おこなうゼミナールにおいて発表する。</p> <p>【論文執筆】</p>								
授業計画 【第1回】	卒業研究は、研究担当者が主体となり取り組んでいくべきものであり、都度報告会に於いて進捗状況を評価し、内容によってはテーマの見直しも含めて実施していく。進捗概要としては以下の通り。 研究課題の設定								
授業計画 【第2回】	課題関連文献検索の調査・収集								
授業計画 【第3回】	課題決定検討会の実施								
授業計画 【第4回】	実験計画の見直し								
授業計画 【第5回】	実験研究の遂行								
授業計画 【第6回】	実験進捗状況検討会の実施								
授業計画 【第7回】	研究成果のまとめ								
授業計画 【第8回】	卒業研究論文発表会での発表								
授業計画 【第9回】	卒業研究論文の提出								
授業計画 【第10回】	内容により学会発表、学術論文誌への投稿、紀要への投稿								

<p>授業の到達目標</p>	<p>【学科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(多面的視野能力) 個人・社会・一国の視点だけでなく、様々な価値観をもち、多面的に問題をとらえ、社会への貢献や地球環境に配慮できる。 ・(技術者倫理に基づくデザイン) 技術者の倫理観や社会の常識に配慮したデザインや研究がおこなえる。 ・(日本語作文能力) 論理的で筋道のある、正しい日本語を書くことができる。(卒業論文) ・(実験・調査結果のプレゼンテーション能力) 実験・調査した内容をプレゼンテーションすることができる。また、コミュニケーションを円滑に進めるために、分かりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。 ・(実験・調査結果のディスカッション能力) 研究者間でコミュニケーションをとおして、論理的にディスカッションできる。その際、相手の質問を理解し、的確に答えることができる。研究者から指摘された内容を的確に把握し、今後の研究に生かすことができる。また、関連する研究に興味を持ち、疑問点などを質問することができる。 ・(課題発掘能力) 文献調査の結果や専門の知識を活用し、食品の分野に関連する問題点を見つけ出すことができる。 ・(デザイン構想能力) 解決すべき問題に対し、複数の解決策を構想し提案することができる。また、様々な条件や制限を考慮に入れ、最適な解決方法を選択し、課題を設定・提案できる。 ・(研究計画能力) さまざまな条件や制約を考慮に入れて研究を計画的に進め、継続的な努力によって、系統的かつ必要なデータを得ることができる。 ・(問題解決のためのプレゼンテーション能力) 調査・研究を行った内容を的確に表現するストーリーを構築し、専門知識および技術に基づいた説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ・(問題解決のための報告書作成能力) 研究によって得られた成果を、卒業論文にまとめることができる。 ・(研究の説明能力) 研究の背景や成果を、国内外を意識して、わかりやすく説明・記述することができる。 <p>【吉本研ローカル】</p> <p>卒業論文は、会社に就職して仕事を遂行する時に求められる基本的なスキル、態度を疑似的に体験し身につける場だと考えている。すなわち、研究室というチームの中で、それぞれの課題について、相互に影響を与えながら、互いに支えあいながら「研究室」という(仮想の)部署運営に参加する。したがって、授業の達成目標の第一は、「チームとして作法の習得」である。</p> <p>次に、研究においては、「論文検索」による既往の研究に対するパースペクティブを得ること、そこから「課題を抽出」し、「課題を設定」して「研究計画」を立てることが必要である。この企画立案プロセスが、第2の到達目標である。このプロセスにおいて、文献整理ソフトMendeleyの操作法を習得する。</p> <p>さらに、これら研究計画を「スケジュール」に基づいてオンタイムで遂行する能力、締切を自分で設定し、締切を守る能力も求める。</p> <p>最後に、アウトプットとしての「論文執筆」および「プレゼンテーション」能力の獲得を到達目標とする。ここにおいては、「日本語運用能力」「学術用語」の理解、Microsoft Excelによるデータのまとめ、グラフによる可視化、統計解析アドインソフトStatcel 4の操作法、Wordによる、アウトライン機能、目次自動作成機能、求められたフォーマットで文章の体裁を調整するスキルなどを習得する。</p>
<p>学位授与の方針(DP)との関連</p>	<p>1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)/1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/2.汎用的技能を応用し活用する能力-(2)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(5)</p>
<p>授業時間外学習【予習】</p>	<p>実験計画で検索した文献の読み込み、および関連文献の調査。講義時間内でまとめきれなかった実験ノートの整理。</p>
<p>授業時間外学習【復習】</p>	<p>実験計画で検索した文献の読み込み、および関連文献の調査。講義時間内でまとめきれなかった実験ノートの整理。</p>
<p>課題に対するフィードバック</p>	<p>都度の報告会に於いて、評価し合うことで問題解決を自ら実施する。</p>
<p>評価方法・基準</p>	<p>【学科共通】</p> <p>単位を認定するうえで1、2、3年次の卒業論文発表会をすべて出席することを条件とする</p> <p>卒業論文に至るまでの取り組み姿勢、結果内容、最終報告状況により総合的に判断する。</p> <p>【吉本研ローカルルール】</p> <p>卒業論文の分量は、本文50ページ以上、参考文献50編以上を基本としている。</p> <p>検索した文献、IPは合否判定の上で管理し、指定されたもの、資料を引用されたものを記載すること、本研究室における論文引用</p>
<p>テキスト</p>	<p>卒業論文の書き方 (中田亨) https://researchmap.jp/blogs/blog_entries/view/77082/0eb9a69b5e4a770751c9f9b0f7f315d0?frame_id=836719&s=06 卒業論文、修士論文 執筆上の注意事項メモ () http://stwww.eng.kagawa-u.ac.jp/~tarumi/sotsuron/howto.html 修士論文の作り方 http://itolab.is.ocha.ac.jp/~itot/message/mstheisis.html?s=06 劣等戦隊・先行研究羅列マン!にご用心!?: 先行研究をまとめるときに最も注意すること (中原淳) https://news.yahoo.co.jp/byline/nakaharajun/20141205-00041226?s=09</p>
<p>参考書</p>	<p>各種専門書、学術文献。</p>
<p>備考</p>	<p>食品製造、加工事業者経営者としての経験を活かした実践的な課題設定とおこなう。</p>